

氏名	高 田 晋 一
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2583号
学位授与の日付	平成15年3月31日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Involvement of the chromosomal translocation t(11;18) in some mucosaassociated lymphoid tissue lymphomas and diffuse large B-cell lymphomas of the ocular adnexa evidence from multiplex reverse transcriptase-polymerase chain reaction and fluorescence in situ hybridization on using formalin-fixed, paraffin-embedded specimens (眼窩領域のMALTリンパ腫とびまん性大型B細胞性リンパ腫における11番・18番染色体の相互転座の検索:ホルマリン固定パラフィン包埋材料を用いたmultiplex RT-PCRと蛍光in situ hybridization)
論文審査委員	教授 谷本 光音 教授 岡田 茂 教授 大月 洋

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

11番・18番染色体の相互転座は MALT リンパ腫に見られる染色体異常で、API2、MALT1 の遺伝子がこの転座に関連している事が知られている。我々は眼窩領域におけるリンパ増殖性疾患について、ホルマリン固定パラフィン包埋材料を用いた multiplex RT-PCR と蛍光 in situ hybridization により、主に11番・18番染色体の相互転座を中心に染色体異常を検討した。反応性リンパ組織過形成の8例中1例、MALT リンパ腫の23例中3例、びまん性大型 B 細胞性リンパ腫の14例中2例に11番・18番染色体の相互転座を認めた。さらに蛍光 in situ hybridization により3番・7番・12番・18番染色体の数的異常を、非選択的に認めたが、反応性リンパ組織過形成の全3例とも染色体の数的異常を認めなかったのに対し、MALT リンパ腫の4例中1例、びまん性大型 B 細胞性リンパ腫の全4例に認めた。これらにより、少なくとも眼窩領域においては一部のびまん性大型 B 細胞性リンパ腫が MALT リンパ腫に由来している可能性が示された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、眼窩領域における悪性リンパ腫および反応性リンパ組織過形成症例を対象として、とくに MALT リンパ腫、びまん性大型 B 細胞性リンパ腫 (DLBL) を中心に t(11;18)(q21;q21) との関連性を調べた。その結果 MALT リンパ腫においても従来陰性であるとされた t(11;18) が 23 例中 2 例(12%)において認められ、各々反応性リンパ組織過形成 (13%)、DLBL (14%) と同様の出現率であり、眼窩領域リンパ腫における一連の病変の病態解明において重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。